

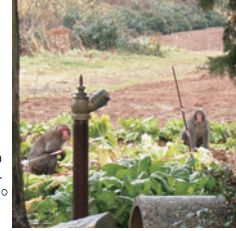
### ネット・柵を設置する

サルが簡単に侵入できないよう、畑や果樹園にネットや柵などの囲いを設置します。サルは運動・学習能力が高い動物なので、ただ囲うだけではなく、様々な工夫も求められます。またそれだけでなく、人間が頻繁に出入りすることでサルの警戒心もより高まります。



### エサを与えない！

野生のサルを見かけても、絶対にエサを与えてはいけません。餌付けされたサルは人間を見ると、エサを奪えるようになります。またサルが出没する地域では、畑に残った作物（サルの食べ残し）・収穫されない柿の実・お墓のお供え物・肥料用の野菜クズなど、エサになりそうなものを放置するのは、餌付けしていることと同じです。放置しないよう、地域で徹底しましょう。



### みんなで追い払う！

サルの人間慣れが猿害拡大につながります。サルを見かけたら、多くの人で追い払いましょう。声を出したり、人間が近づくだけでもサルは怖がって逃げ去ります。地域の追い払いではロケット花火やパチンコなどを使用し、集落から出るまで追い払いを続けていくことで「この集落は危険だ」と認識させることができます。



### 隠れ場をなくす

山林から集落の間には、荒廃した里山や耕作放棄地が増えてきています。こうした場所の茂みや藪のなかはサルだけでなく、野生動物の絶好の隠れ場となります。これらを見通しよく管理することで、野生動物が人里に近づきにくくなります。



## 野生動物との共存への道

サルどこネットでは日々の追跡調査を通して、二ホンザルの生態や各群れの行動パターンの把握に努めています。身近にいる群れの動向と被害の全体像を知ることが、より効果的な対策を立てるヒントになるといことがわかりました。そこで猿害がこれ以上拡大しないよう、農家だけでなく地域全体の課題として向き合いながら、サルが人家や田畑へくる目的となりそうなものは排除し、追い払いを行うなどの地道な対策を続けることが求められます。このまま動物の数が増えすぎて被害に歯止めがかからない状態になると、捕獲・駆除もやむを得ない選択になります。が、それだけで解決する問題ではありません。かつて、人間と野生動物はお互いの生活域でそれぞれがすみわけており、共存が成り立っていたように感じられます。人間の生活環境の様々な変化によって、サルをはじめとする野生動物の生活に少なからず影響を与えたことを考えると、すみわけるという形で「共存への道」を探っていく必要があるのではないかと思います。追い払うなんてサルが可哀想だと思ってしまうこともあるかもしれませんが、そうすることによって、野生のサルがサルらしく生きていくことへとつながっていくのではないのでしょうか。同時に野生動物にとつての本来のすみかである山の環境を保全していくことも、今後、被害を防ぐひとつの方法であると考えます。

二ホンザルの生態を知り、共存への道を考えてみませんか？ サルどこネットを講師に迎え、講座を開催します！

夏休み子ども環境講座

7月中旬頃  
募集開始！

### おサルさんの生活を知ろう

日時 8月6日(火) 10:00～11:30

会場 三重県環境学習情報センター

募集人数 小学生と保護者 30人

※「夏休み子ども環境講座」の申込方法は他講座と異なりますので7月中旬頃にセンターホームページをご確認ください

指導者養成スキルアップ講座

参加者  
募集開始！

### 野生動物との共存 ～二ホンザルの生活を通して～

日時 9月14日(土) 14:00～16:00

会場 三重県総合文化センター内  
三重県生涯学習センター 中研修室

募集人数 40人 ※申込み多数の場合は抽選 その際は三重県在住者を優先します

締切 8月17日(土)